

「わからないのがよい」

(第十五回)

映画やテレビドラマのストーリーは、時代とともに変わってきている。以前には、純愛ロマンスに涙したり、大金目的の銀行強盗にハラハラしたりと。私たちの夢や希望が、そこに投影されてきた。

豊かな日本では、物や金を得るという筋書きはあまり流行らない。人気があるのは、コメディやサイコサスペンス、人と人との関わりを描いたヒューマンドラマなどである。

そういえば、先日観た映画「What women want」(女性が欲しがっているもの)。あるハンサムな

男性は、女性の心を瞬時に読める才能を持つ。相手の心理が手に取るようにわかるので、好都合だ。でも、毎朝「おはよう」と愛想良く声をかけてくれる女子

事務員の本心が、全く正反対であることを知り、愕然！。次第に悩みが増えて、気がおかしくなってきた。

また、逆のバターの映画「サトラレ」。主人公は、子供の頃から秀才の誉れ高い若い外科医。念の力があまりに強いため、考えていることが周囲の人々に伝わってしまう。自分の気持ちすべて悟られてしまうのだ。日常診療にも、愛の告白の時にも、困った事態となる。

健康のススメ
板東 浩

ユングの心理学では、私たちの心は潜在意識でつながっているという。人は言葉によって相互に理解しあえる。もっと深く知りたい。

しかし、他人の気持ちかわかり過ぎると、心の健康に悪いようだ。お互いにわからない部分があるからこそ、よいのではないだろうか？

(徳島大学附属病院内科医師)